

はじめに

平成 29 年度筑波大学大学院図書館情報メディア研究科図書館情報メディア専攻博士前期課程修了者の修士学位論文抄録集を刊行いたしました。本抄録集には研究科の多様で先端的な研究の成果が集結しています。研究科長として、論文完成に至るまでの大学院生各位の努力を讃えるとともに、指導教員、副指導教員や査読者を始めとする論文作成に関わられた教員各位および学生の研究活動を支えられた支援室の職員の方々に感謝申し上げます。

図書館情報メディア研究科は、「情報メディアによる社会の知識共有とその仕組みに係る研究を発展させ、新しい時代に向かって社会をリードする人材を養成」することを使命としてかけ、社会における知識・情報の共有や、その仕組みとしての図書館や情報ネットワークを対象にした、人文学、社会科学、理工学等の多様なアプローチからの総合的・複合的な教育研究を行っています。そのような多面性を実現し、かつ大学院教育の実質化を推進するという観点から、本研究科博士前期課程では、修士（図書館情報学）と修士（情報学）の 2 つの学位に対応した教育プログラムを提供しています。今年度は、こうした教育課程で学んだ大学院生 59 名（うち修士（図書館情報学）26 名、修士（情報学）33 名）が修士の学位を取得できました。

博士前期課程修了生は、公的機関や企業等で図書館情報メディアに係る専門家として実務に携わるもの、将来この領域の先駆的な研究者になるべく博士後期課程に進学するものなどさまざまです。どのような職であれ、修了者各位が本研究科で学んだことや修士論文を完成させるまでの研究生活の中で得た知見を活かし、知識情報社会のフロンティアとして今後活躍されることを、教職員一同、心より期待します。

平成 30 年 3 月

図書館情報メディア研究科長 溝上智恵子

目 次

《 修士（図書館情報学） 》

朝 倉 美 穂	高等学校図書館におけるキャリア教育への支援	1
伊 川 真 以	公共図書館における音響特性と音響快適性について	2
榎 本 翔	図書館における情報リテラシー教育の高大連携	3
大 北 昂 斗	バーチャルリアリティによる視環境が作業効率および作業者の心理に及ぼす影響	4
大 西 侑 気	AIとプライバシー・個人情報 ～ヒト型ロボットをめぐる論点～	5
川 浦 瑞 花	災害の記憶を想起させる装置としての原状記録と現物資料の研究	6
河 本 毬 馨	公共図書館内の飲食可否に関する利用者の意識と利用実態及び図書館の周知方法	7
坂 本 かな え	主題のある資料群をいた図書館資料アクセス方法の提案	8
舌 間 倫 香	ピアチューターの意義と養成	9
篠 崎 貴 徳	タイにおけるコミュニティ学習センターの実態と役割： 北部チェンライ県を対象として	10
菅 原 早 紀	ヒューマンライブラリーにおける対話と自己理解 —語り手となる「本」の語りから—	11
長 岡 優	診療ガイドラインにおける引用文献の特徴	12
前 田 仁	公共図書館利用者の属性と満足度の関連	13

森澤ひかる	戦後初期の学校図書館の活用における雑誌『図書教育』の役割 ……………	14
于紅宇	大学図書館が提供するパスファインダーの実態調査 ……………	15
袁方	Internet Archive を用いた公共図書館ホームページの経年変化の調査 …	16
徐小鳳	「爆買い」イメージの日中比較 一両国の報道に関する内容分析と若者へのインタビューをもとに ……	17
冉穎	災害アーカイブ資料間のリンクを指向した地名変遷記述のための メタデータモデルに関する研究 ……………	18
張垂飛	間政銀川を対象とした市民の政府に対する問いかけの分析 ……………	19
田雪	OA 誌と非 OA 誌の Impact Factor の経年変化 ……………	20
鄧琪	Evaluating the Educational, Social and Recreational Functions of University Library Cafés - A Cross-National and Cross-Cultural Comparative Study ……………	21
遠藤雅士	炭鉱社会におけるメディアとしての炭鉱労働組合紙に関する研究 ………	22
鈴木美識	アーカイブズ学的手法を用いたライフ・ヒストリーの復元研究 ……………	23
星美由紀	高等学校図書館担当者の選書における役割と責務 ……………	24
顧雅威	日本の大学図書館における学生協働の変遷 ……………	25
唐嘉	中国人留学生の情報発信が日中交流において果たす役割に関する研究 …	26

《 修士 (情報学) 》

青山 優里彩	Web 情報検索におけるメタ認知活性化手法の提案 ……………	27
大 舘 雄 太	遠隔操作移動ロボットのためのマルチカメラによる自由視野を 利用した半自律操作手法 ……………	28
小 幡 将 司	OPAC 利用ログを用いた文献検索システムに関する研究 ……………	29
川 島 崇 秀	Twitter からの消費者ニーズ抽出手法に関する研究 ……………	30
黒 崎 友	RWC 楽器音データベースを用いたビブラート音の分析 ……………	31
佐 々 木 優	マイクロタスク型クラウドソーシングによるリバーシを題材にした 意見集約手法の検討 ……………	32
佐 藤 愛	トランペット演奏における呼吸制御に関わる筋活動と 音響的特徴との関係 ……………	33
島 田 理 紗 子	重複する料理レシピの書き換えのタイプに着目した コーパスの構築と分析 ……………	34
積 佑 典	リソース集約を用いた東日本大震災デジタルアーカイブの 利活用性向上に関する研究 ……………	35
関 口 智 大	アーティスト制御可能なオーロラシミュレーションに関する研究 ………	36
関 根 吉 紀	An Algorithm for Extracting Schemas from External Memory Graphs	37
高 山 凱 久	時系列データ解析における相互情報量の推定方法の検討 ……………	38
武 田 直 人	ライフイベントを経験したユーザに共通するトピック推移の分析手法 ·	39

長尾悠真	Classification of Presentation MathML Expressions Using Multilayer Perceptron	40
中西明日輝	バーチャルリアリティ技術と実機を組み合わせた安全研修システム	41
中村優太	不十分な情報下での緊急度と効率的な網羅を考慮した経路探索	42
野沢健人	トピックモデルを用いたグラフ表現に対する潜在的意味解析に関する研究	43
福田拓也	雑談システムにおけるバックチャネル応答の抽出に関する研究	44
村松陽太郎	系列的手続き記憶の再生におけるエラーの生起傾向に関する分析	45
米良俊輝	A Method for Crowdsourced Hypothesis Generation and Verification for Scientific Research	46
山田純也	美的評価を用いた写真の自動編集に関する研究	47
湯野悠希	聴覚障害者の環境音同定に関する研究 -時間情報・周波数情報の観点から-	48
吉岡孝祐	IFLA LRM に基づくマンガ・アニメ・ゲームの作品実体と実体間関係記述のためのメタデータモデルに関する研究	49
何 瓣	母語話者の発話を利用した非母語話者音声認識の研究	50
原 皓	畳み込みニューラルネットワークを用いたひらがなのくずし字認識	51
徐 炯 達	SAT 法に基づくセルフメンタルケアシステムにおけるチャットボットの利用	52
宋 暁 宇	非母語話者と母語話者の会話における母語話者テキスト入力の研究	53

張	丹 荷	訪日客向け街歩きマップの制作 —建物の空間情報と観光ルートを中心に—	54
唐	夢 苑	非母語話者のための母語話者との会話を支援する 複数エージェントの研究	55
楊	珍	スマートフォンを用いた SAT 法に基づくセルフメンタルケアシステムの 研究	56
城 山	龍 太 郎	視覚的作業記憶における情報表現の研究 —位置属性に着目した属性間結合の検討—	57
二 十 步	亮 介	Linked Open Data 環境におけるメタデータ記述語彙の類似度算出手法	58
縵 沢	奈 穂 美	電子書籍と紙の書籍の比較項目が購入判断に及ぼす影響	59